

10/17-23 聖書日課と分かち合い

10月17日(月) エズラ7:1-10 捕囚から帰って来たエズラ

1 これらの事があって後、ペルシアの王アルタクセルクセスの治世に、エズラがバビロンから上って来た。エズラの祖先は、父がセラヤ、祖父がアザルヤ、更にヒルキヤ、2 シャルム、ツアドク、アヒトブ、3 アマルヤ、アザルヤ、メラヨト、4 ゼラフヤ、ウジ、ブキ、5 アビシュア、ピネハス、エルアザル、そして祭司長アロンとさかのぼる。6 エズラは、イスラエルの神なる主が授けられたモーセの律法に詳しい書記官であり、その神なる主の御手の加護を受けて、求めるものをすべて王から与えられていた。7 アルタクセルクセス王の第七年に、イスラエルの人々、祭司、レビ人、詠唱者、門衛、神殿の使用人から成る一団がエルサレムに上り、8 同王の第七年の第五の月にエルサレムに到着した。9 彼らは第一の月の一日をバビロン出発の日とし、神の慈しみ深い御手の加護を受けて、第五の月の一日にエルサレムに到着した。10 エズラは主の律法を研究して実行し、イスラエルに掟と法を教えることに専念した。

祭司であり書記官であったエズラのエルサレムへの帰還が描かれています。まず最初に系図が記され、祭司アロンにつながる正統な祭司であることがわかります。モーセの兄であるアロンと、その子孫にだけ授けられるレビ神権の最高位の職でした。キリストがモーセの律法を成就されたことによりこの制限は取り除かれたことを、私たちは現代において聖書から知ることができます。私たちの信仰がゆらぐことのないように、神さまが与えてくださった聖書のみ言葉に、心から感謝いたします。

10月18日(火) ルカ10:38-42 必要なことはただ一つ

38 一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。39 彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。40 マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」41 主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。42 しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

共同体である教会において私たちは様々な形でご奉仕をしています。そして礼拝を守ることでみ言葉をいただき、聖書の学びの時を与えていただいています。一番大切なことはただひとつ、神さまへのご奉仕は、教会での礼拝をお守りすることだと教えてくださっています。

10月19日(水) 詩編34:2-11 どのようなときも主をたたえ

(アルファベットによる詩)

1 【*ダビデの詩。ダビデがアビメレクの前で狂気の人を装い、追放されたときに。*】
2 どのようなときも、わたしは主をたたえ
わたしの口は絶えることなく賛美を歌う。

3わたしの魂は主を賛美する。

貧しい人よ、それを聞いて喜び祝え。

4わたしと共に主をたたえよ。

ひとつになって御名をあがめよう。

5わたしは主に求め

主は答えてくださった。

脅かすものから常に救い出してくださった。

6主を仰ぎ見る人は光と輝き

辱めに顔を伏せることはない。

7この貧しい人が呼び求める声を主は聞き

苦難から常に救ってくださった。

8主の使いはその周りに陣を敷き

主を畏れる人を守り助けてくださった。

9味わい、見よ、主の恵み深さを。

いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。

10 主の聖なる人々よ、主を畏れ敬え。

主を畏れる人には何も欠けることがない。

11 若獅子は獲物がなくて飢えても

主に求める人には良いものの欠けることがない。

主により頼む者は、一時の苦しみを乗り越えた後に祝福される、という賛美の歌をダビデは自分の経験から歌います。苦境の中にあっても、環境の大変な中にあっても、遥かに大きな主を仰ぎ見、主の誠の愛を思う時、新たな道は既に備えられています。

10月20日(木) エズラ7:27-8:14 エズラと共に行く人びと

27 わたしたちの先祖の神、主はほめたたえられますように。主は、このようにエルサレムの神殿を栄えあるものとする心を王にお与えになり、28 わたしには王とその参議官、そのすべての優れた高官の好意を受けられるようにしてくださった。わたしは、わが神なる主の御手の加護によって勇気を得、イスラエルの中でわたしと共に上って行こうとする頭たちを集めた。

1 アルタクセルクセス王の治世に、わたしと共にバビロンから上って来た家長と、その家系は次のとおりである。

2 ピネハスの一族からゲルショム、イタマルの一族からダニエル、ダビデの一族からハトシュ、3 シェカンヤの一族の者、パルオシュの一族から、ゼカルヤと、彼と共に家系に従って記録された男百五十人。4 パハト・モアブの一族から、ゼラフヤの子エルヨエナイと男二百人。5 ザトの一族から、ヤハジエルの子シェカンヤと男三百人。6 アディンの一族から、ヨナタンの子エベドと男五十人。7 エラムの一族から、アタルヤ

の子エシャヤと男七十人。8 シェファトヤの一族から、ミカエルの子ゼバドヤと男八十人。9 ヨアブの一族から、エヒエルの子オバドヤと男二百十八人。10 バニの一族から、ヨシフヤの子シェロミトと男百六十人。11 ベバイの一族から、ベバイの子ゼカルヤと男二十八人。12 アズガドの一族から、ハカタンの子ヨハナンと男百十人。13 アドニカムの子から、その最後の者たちで、名をエリフェレト、エイエル、シェマヤという者と男六十人。14 ビグワイの一族から、ウタイ、ザクルと男七十人。

27節 28節の祈禱文は、神への賛美を通して、イスラエルのこれからをお祈りしています。そして、神さまの業は異邦人にもあらわされます。バビロンからエルサレムに上って来た人々のリストを見る時、第一に祭司、次に王家の者、最後に十二部族と、再び約束の地に入るといふ神さまからの、お導きがあらわされています。罪ある人間を赦し続けてくださる神さまの深い愛に、心より感謝いたします。

10月21日(金) ローマ12:1-8 自分の体を神に献げて

1 こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

3 わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。4 というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、5 わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。6 わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、7 奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、8 勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」献身とは、礼拝をお捧げすることであるということ、私たちが忘れていないでしょうか。神さまに赦しを乞い、祈り求めたいと思います。

10月22日(土) ルカ14:15-24 盛大な宴会への招き

15 食事を共にしていた客の一人は、これを聞いてイエスに、「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう」と言った。16 そこで、イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人を招き、17 宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう用意ができましたから、おいでください』と言わせた。18 すると皆、次々に断った。最初の方は、『畑を買ったので、見に行かねばなりません。どうか、失礼させてください』と言った。19 ほかの方は、『牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べ

に行くところです。どうか、失礼させてください』と言った。20 また別の人は、『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』と言った。21 僕は帰って、このことを主人に報告した。すると、家の主人は怒って、僕に言った。『急いで町の広場や路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい。』22 やがて、僕が、『御主人様、仰せのとおりにいたしました。まだ席があります』と言うと、23 主人は言った。『通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ。24 言うておくが、あの招かれた人たちの中で、わたしの食事を味わう者は一人もいない。』』

神さまの愛は分け隔てなく、全ての人に注がれます。目に見える姿かたちに捕われやすい人間を誡め、神の祝福は心から神を求める者に注がれると語っています。神の国の宴会に招いていただける信仰を持つ大切さに、あらためて気づかされます。

10月23日(日) エズラ8:15-23 礼拝を整える人たち

15 わたしはアハワに向かって流れる川のほとりに彼らを集めた。そこでわたしたちは、三日間野営した。そこには民も祭司もいるのが分かったが、レビ人が見当たらなかった。16 そこでわたしは頭たちエリエゼル、アリエル、シェマヤ、エルナタン、ヤリブ、エルナタン、ナタン、ゼカルヤ、メシュラム、教官ヨヤリブとエルナタンを遣わし、17 カシフヤという所の頭イドのもとに行かせた。そしてカシフヤという所の神殿の使用人である彼とその兄弟たちに、わたしたちの神の神殿に仕える者をよこしてほしいと伝えさせた。18 慈しみ深い神の御手がわたしたちを助けてくださり、彼らはイスラエルの子レビの子であるマフリ一族のシェレブヤという有能な人物を、その子らと兄弟十八人と共に連れて来た。19 更に、メラリ一族からハシャブヤとその兄弟エシャヤ、および彼らの子ら二十人、20 また、レビ人に奉仕するようにダビデと高官たちが定めた神殿の使用人の中からも、二百二十人の使用人を連れて来た。皆一人一人その名が記録されている。

21 わたしはアハワ川のほとりで断食を呼びかけ、神の前に身をかがめ、わたしたちのため、幼い子らのため、また持ち物のために旅の無事を祈ることにした。22 わたしは旅の間敵から守ってもらうために、歩兵や騎兵を王に求めることを恥とした。「わたしたちの神を尋ね求める者には、恵み溢れるその御手が差し伸べられ、神を見捨てる者には必ず激しい怒りが下ります」と王に言っていたからである。23 そのためわたしたちは断食してわたしたちの神に祈り、祈りは聞き入れられた。

旅の初めの祈りは、霊的な旅の準備であり、ここでの断食は旅の危険からの保護を神さまに祈るためです。王からの護衛を拒否し、「神の手」の守護にあることの信仰心をあらわし、その祈りが聞かれます。「神を見捨てる者には必ず激しい怒りが下ります。」とありますが、それほどまでに神さまは私たちが強く愛してくださっているということだと思われま